

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
中間配当：毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱所 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
0120-78-2031 (フリーダイヤル)
- 同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
- 単元株式数 100株
- 証券コード 7266 (東京・名古屋証券取引所市場第一部)

当社ホームページ紹介

当社及びグループ会社の概要、財務・製品・採用・決算等の最新情報につきましては、ホームページにてご案内しております。ぜひ、下記アドレスまでアクセスしていただきますようご案内申し上げます。

URL <http://www.imasen.co.jp/>

住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。
*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株主の皆様のお声をお聞かせください

当社では、株主の皆様のお声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **7266**

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jp へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

IMASEN REPORT 09

第73期報告書

2009.4.1-2010.3.31

株式会社今仙電機製作所

〒484-8507 愛知県犬山市字柿畑 1 番地
TEL (0568) 67-1211 (代表)

株主の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
第73期の業績について、ご報告させていただきます。



代表取締役会長

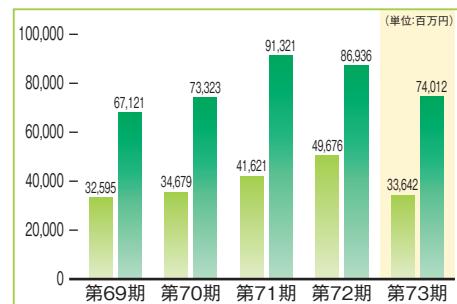
代表取締役社長

若山 恭二 増谷 修

■決算ハイライト

売上高は減少したものの、

売上高 740億円
前期比 14.9%減少

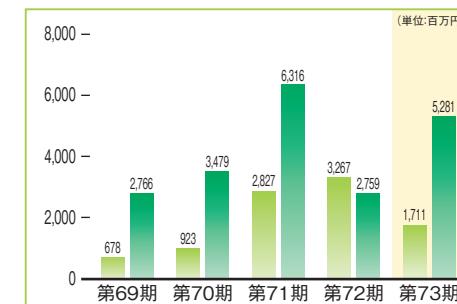


原価低減活動に取り組み、増益となりました

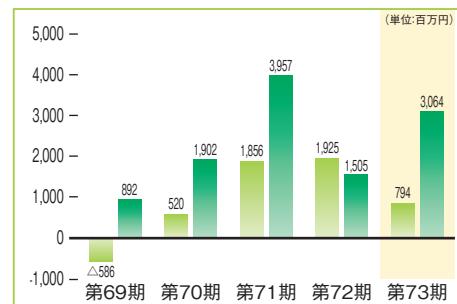
営業利益 51億円
前期比 40.6%増加



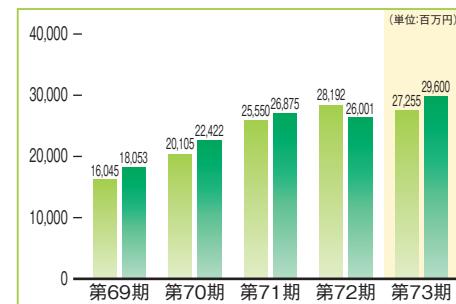
経常利益 52億円
前期比 91.4%増加



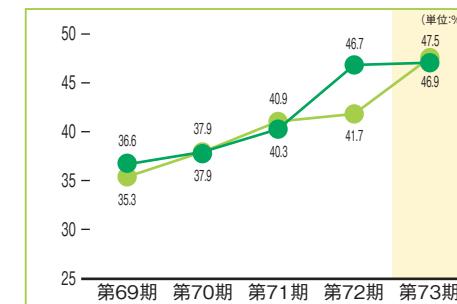
純利益 30億円
前期比 103.5%増加



純資産 296億円
前期比 13.8%増加



自己資本比率 46.9%
前期比 0.2ポイント増加



経営理念

想像力を豊かにし、
これをより安く、

これまでに存在しない全く新しい製品・サービスを創造し、
より速く、世の中に提供することで、人々の豊かな暮らしに貢献いたします。

Contents

- 株主の皆様へ 1
- 決算ハイライト 1
- 中国・アジア戦略 3
- 事業別営業の概況 6
- 決算の状況（連結） 7
- 会社の概況 9
- 株式情報 9
- 新製品紹介 10
- トピックス 10

特集企画 「IMASENを知る」第4弾 IMASENの中国・アジア戦略

成長を続ける巨大市場、中国。特に自動車市場としては、2009年に世界最大となるなど、自動車業界における存在感が急速に高まっております。
特集企画「IMASENを知る」第4弾となる今回は、こうした巨大市場、中国と周辺アジア地域におけるIMASENの現状と今後の取り組みについて、ご紹介いたします。

■アジア地域における拠点展開の状況 シートアジャスタの供給網を整備

IMASENでは、日系カーメーカーの世界生産に対応するため、主力製品であるシートアジャスタの生産・供給網をグローバルに整備しており、各カーメーカーが求める現地調達に 대응しております。

特にアジア地域におきましては、今後の市場拡大への期待に加え、低コストを活用した各拠点への部品供給機能の構築のため、拠点整備の充実を図っております。



インドの事業展開



4月より稼働を開始
今後の受注拡大を目指す

IMASENの最も新しい生産拠点であるインドのIMIPは、本年4月より稼働を開始いたしました。

現地ホンダ様向けのマニュアルシートアジャスタの生産からスタートしておりますが、インドは中国と並び、今後一層の拡大が期待される巨大な自動車市場であることから、これを足がかりに、一層の受注拡大を目指してまいります。

中国の事業展開



第四期拡張工事を実施
今後一層の受注拡大に
備える

中国の自動車市場は、一昨年の世界的な経済危機により、一時的に落ち込みを見せたものの、政府による減税などの需要刺激策が功を奏し、昨年には自動車販売台数が1,300万台を突破し、アメリカを抜いて世界最大の自動車市場にまで急成長を遂げております。

IMASENでは、中国における市場の拡大を予測し、2001年に現地法人GICO(広州今仙電機有限公司)を設立し、以来、この巨大市場における地位の確立に努めてまいりました。

こうした結果、GICOの売上高は年々増加し、現在ではIMASEN最大の海外拠点にまで成長しており、連結収益を支える非常に重要な拠点となっております。



2009年 広州モーターショーの様子

広州今仙電機有限公司の概要 (2009年12月末現在)

所在地	広東省広州市花都区花山镇
資本金	74百万人民币
従業員数	876人

現在の主な製品としては、广汽本田様(広州市)のアコード、オデッセイ、フィット、シティー、東風本田様(武漢市)のCR-V、シビック、スピリアなどといった多くの車種に向けて、パワー及びマニュアルのシートアジャスタの生産を行っております。

これらの採用車種の販売は好調に推移しており、GICOの設備負荷も高くなっていることから、生産性向上、省人化などの改善に重点的に取り組んでおります。

GICOにおけるこうした状況は今後もしばらくは続くものと想定しており、生産スペース不足が見込まれることから、第四期となる拡張工事を実施しており、2010年6月には設備レイアウトまで完了する予定となっております。この拡張工事により、生産能力の約30%向上に対応したスペースを確保できる見通しとなっております。

GICO 売上高の推移





GICO
生産の様子



第四期工事による拡張スペース

この拡張スペースを活かし、今後の受注拡大への対応を図るほか、現地生産工程の拡充を図ってまいります。

さらにコスト競争力を活かし、日本や米国などの他拠点に向けた部品供給拠点としての活用を検討していく方針です。

中国の自動車市場は今後も拡大が予想されており、現地のカーメーカー各社は、能力拡大を急速に進めております。IMASENでは、内陸部など、広州地区以外への納入が増加傾向にあることに加え、拡大する市場での地位を確固たるものとし、新たな受注チャンスを逃さないためにも、現在の広州1拠点体制での是非を含め、今後の最適な生産、供給体制の構築に向け、検討を進めてまいります。

■広州市の概要

GICOの所在する広東省広州市は、南部の沿岸都市であり、ホンダ、日産、トヨタの現地法人が拠点とするなど、北の上海と並び、中国における自動車産業の一大集積地となっております。

中国におけるモータリゼーションの進展に合わせるように、日々、都市機能が進化しており、昨年末には、内陸都市の武漢市とを結ぶ高速鉄道が完成するなど、中国南部の中心として、ますます発展しております。



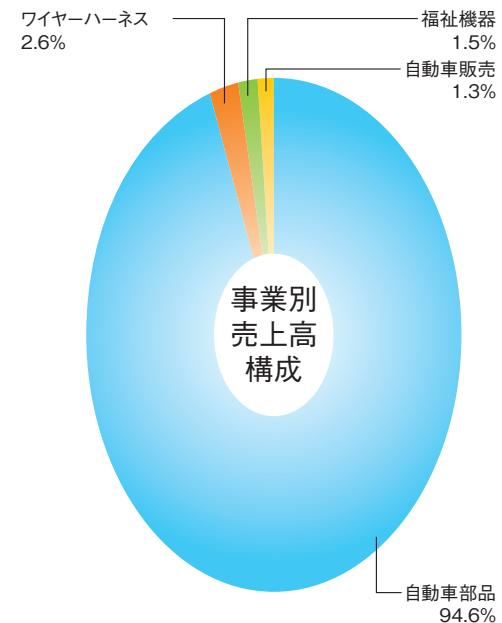
広州南駅と高速鉄道

連結 海外売上高の推移



■事業別営業の概況

主力の自動車部品関連事業の収益改善が進んでおります



自動車部品関連事業

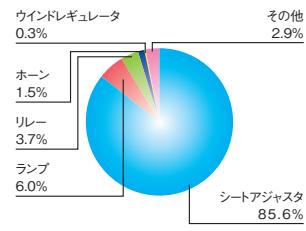
売上高 69,994百万円
(前年同期比 14.2%減)
営業利益 5,056百万円
(前年同期比 51.1%増)



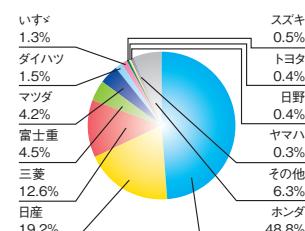
パワーシートアジャスタ

金融危機による景気の後退が自動車販売台数の落ち込みにつながり、世界的な自動車減産の影響から売上高が減少しております。しかしながら、需要の回復は当初見込みを上回るペースとなっており、一方で、落ち込んだ受注に対応し徹底したコスト削減に努めた結果、増益を確保することができました。

■製品別売上高構成



■販売先系列別売上高構成



ワイヤーハーネス関連事業

売上高 1,961百万円
(前年同期比 38.2%減)
営業損失 △14百万円
(前年同期比 -)

前期後半からの工作機械需要の冷え込みが依然として続いていることから、大幅な減収となり、損失計上となりました。

福祉機器関連事業

売上高 1,121百万円
(前年同期比 11.1%増)
営業利益 138百万円
(前年同期比 34.6%増)

電動車いすを中心とした販売が好調に推移し、原価低減にも努めた結果、増収増益となりました。

自動車販売関連事業

売上高 936百万円
(前年同期比 17.8%減)
営業損失 △15百万円
(前年同期比 -)

国内自動車販売は依然として低迷が続いており、目立った新車効果もなかったことから、減収、損失計上となりました。

決算の状況（連結）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	年度別	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	当連結会計年度末 (平成22年3月31日)
【資産の部】			
流動資産		26,847	35,968
現金及び預金		4,898	9,564
受取手形及び売掛金		14,734	19,551
たな卸資産		4,867	4,928
その他		2,351	1,926
貸倒引当金		△3	△2
固定資産		26,877	25,244
有形固定資産		24,011	21,467
建物及び構築物（純額）		7,481	7,192
機械装置及び運搬具（純額）		7,789	6,515
その他（純額）		8,739	7,759
無形固定資産		279	356
その他		279	356
投資その他の資産		2,587	3,421
投資有価証券		2,271	3,100
その他		351	356
貸倒引当金		△35	△35
資産合計 POINT①・②		53,725	61,212

科目	年度別	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	当連結会計年度末 (平成22年3月31日)
【負債の部】			
流動負債		17,883	22,966
支払手形及び買掛金		9,887	12,856
1年内償還予定の社債		—	167
短期借入金		3,231	2,774
未払法人税等		74	1,854
賞与引当金		936	1,086
その他		3,753	4,228
固定負債		9,840	8,645
社債		3,803	3,500
長期借入金		2,592	1,885
退職給付引当金		1,872	1,741
その他		1,573	1,519
負債合計		27,723	31,611
【純資産の部】			
株主資本		25,816	28,752
資本金		4,396	4,464
資本剰余金		4,129	4,197
利益剰余金		17,397	20,197
自己株式		△107	△108
評価・換算差額等		△741	△46
その他有価証券評価差額金		550	1,061
為替換算調整勘定		△1,291	△1,108
少数株主持分		925	895
純資産合計 POINT①・②		26,001	29,600
負債純資産合計		53,725	61,212

POINT① 総資産・純資産

売上の回復に伴い、売掛債権が増加したことから、総資産は61,212百万円（前期末比7,487百万円の増加）となりました。
純資産につきましては、利益剰余金の増加などにより、29,600百万円（前期末比3,599百万円の増加）となりました。
なお、1株当たり純資産は1,615円57銭となっております。



POINT② 自己資本比率

総資産・純資産ともに増加となりましたが、純資産の増加率がやや上回ったことから、自己資本比率は前期末から0.2ポイントの改善となる46.9%となりました。



連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	年度別	前連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	POINT③	86,936	74,012
売上原価		75,901	62,519
売上総利益		11,035	11,493
販売費及び一般管理費		7,348	6,307
営業利益		3,687	5,185
営業外収益		535	327
営業外費用		1,464	231
経常利益		2,759	5,281
特別利益		56	27
特別損失		528	145
税金等調整前当期純利益		2,287	5,163
法人税、住民税及び事業税		497	2,138
法人税等調整額		200	△56
少数株主利益		82	17
当期純利益		1,505	3,064

POINT③ 売上高

上期におきましては、国内外における自動車生産の落ち込みにより、前年同期比で大幅な減収となりましたが、下期はアジア地域を中心とした需要の回復により上期比、前年同期比ともに、増収に転じております。



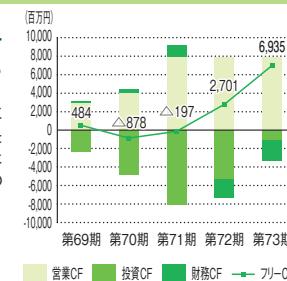
連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	年度別	前連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	POINT④	7,978	7,955
投資活動によるキャッシュ・フロー		△5,276	△1,019
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,971	△2,295
現金及び現金同等物に係る換算差額		△387	53
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		342	4,694
現金及び現金同等物の期首残高		4,217	4,559
現金及び現金同等物の期末残高		4,559	9,254

POINT④ フリーキャッシュ・フロー

収益の改善により営業活動によるキャッシュ・フローを維持した一方、設備投資の抑制により、投資活動によるキャッシュ・フローを圧縮した結果、フリーキャッシュ・フローは6,935百万円（前期比4,234百万円の増加）となりました。



ご参考 設備投資

新製品の立ち上がりが少なかったことに加え、大幅な売上減少を見込み、緊急対策として徹底した投資の抑制を行ったことから、大幅に減少しております。
なお、減価償却費につきましては、4,401百万円（前期比396百万円の減少）となっております。



■会社の概況 (平成22年3月31日現在)

■会社の概要

社名	株式会社 今仙電機製作所 Imasen Electric Industrial Co.,Ltd.
設立	昭和14年2月1日
資本金	4,464百万円
主な事業内容	自動車用機構製品及び電装製品の製造・販売
従業員数	3,848名(連結)
本社所在地	愛知県犬山市字柿畑1番地
営業所	東京支店/広島支店/栃木支店
工場	名古屋工場/岐阜工場/八百津工場 岡山工場/春里工場/可児工場/広島工場 株式会社九州イマセン
海外拠点	台湾/フィリピン/米国/ 中国/タイ/インド

■株式情報 (平成22年3月31日現在)

■株式の状況

発行可能株式総数……………49,195,000株
発行済株式の総数……………17,982,967株
株主数……………4,005名

■大株主 (上位10名)

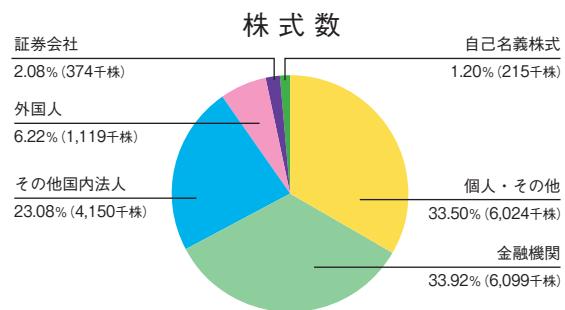
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
本田技研工業(株)	1,066	6.00
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	829	4.66
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	799	4.49
IMASEN取引先持株会	752	4.23
ヤマハ発動機(株)	613	3.45
(株)三菱東京UFJ銀行	605	3.40
今仙電機従業員持株会	524	2.95
(株)第三銀行	505	2.84
東京海上日動火災保険(株)	505	2.84
日本トラスティ・サービス信託銀行(中央三井)	468	2.63

(注) 持株比率は自己株式(215千株)を控除して計算しております。

■役員 (平成22年6月23日現在)

代表取締役会長	若山 恭二	取締役	坪内 明
代表取締役社長	増谷 修	取締役	山田 博
専務取締役	上西 正司	取締役	藤掛 治
専務取締役	梅田 敏雄	常勤監査役	河村 則行
常務取締役	宇根 敏昭	常勤監査役	大澤 慶文
取締役	植松 俊夫	監査役	尾関 誠治
取締役	渡邊 和彦	監査役	宮澤 俊夫
取締役	丹羽 和秋		
取締役	中島 良紀		

■所有者別分布状況



■配当金の推移



■新製品紹介

間接照明器 (LEDイルミネーションランプ) の製品化

IMASENは、車内空間に間接照明を提供する新製品LEDイルミネーションランプを開発し、三菱自動車工業(株)様の新型RVRに採用いただきました。

この製品はLEDユニットとその光を通す棒状の樹脂にて構成され、光源の位置にかかわらず均一な照明をする機能を持っております。導光技術の採用により、インテリア性アップと光源の削減によるエコを実現した製品となっております。

今後一層の採用拡大を目指してまいります。



<三菱自動車新型RVRに搭載のLEDイルミネーションランプ>

■トピックス

スキー用義足使用の瀧上選手がパラリンピックで健闘

IMASENの福祉機器関連事業を担当する(株)今仙技術研究所が開発したスキー用義足(膝継手)を使用いただいている瀧上賢治選手が、2010年3月開催のバンクーバーパラリンピックに出場され、2種目で見事に完走を果たされました。

瀧上選手のように大腿切断で膝継手を使用したスキー競技者は世界でも例がなく、今回の義足は、完全にオリジナルの開発を行っております。

IMASENは、今後も障害者スポーツを応援してまいります。

